

下水道施設緑と水の公園化プロジェクトに関する研究

全体期間

2003.12～2005.3

(目的)

都市の下水道施設は、下水処理場や開きょ管路を中心に貴重なオープンスペースである。これらは、市民の憩いやレクリエーション、あるいは防災のためのスペース提供、水辺やビオトープの形成などの観点から高いポテンシャルを有している。そこで、下水道施設のポテンシャルを活用した“水・緑空間”の形成について、その実態や手法の整理および取りまとめを行い、今後展開すべき施策について検討・提案することを目的とする。

昨年度は都道府県および中核都市以上の自治体を対象にして、下水道施設（管きょ、処理場、ポンプ場）における“水・緑空間”整備ならびに多目的利用の現状についてアンケート調査を実施し、課題整理を含めた現状分析等を行った。本年度は、昨年度成果を踏まえながら、下水道施設（処理水の利用等も含む）のポテンシャルを活用した“水・緑空間”整備について、先進的事例の詳細な調査によって問題点等を抽出し、その解決策の検討を通じて“水・緑空間”整備促進のための施策について検討を行った。

なお、本業務は国土交通省下水道部 11 プロジェクト「No. 9 下水道施設緑と水の公園化プロジェクト」に関連し、国土交通省より委託されたものである。

(結果)

1. 下水道施設における水・緑空間形成／活用状況に関するアンケート

今回の水・緑ポテンシャル活用については都市地域での活用が期待されることから、都道府県、県庁所在地、人口 30 万人以上の自治体を対象としてアンケートを実施した。

各施設での緑化可能面積は分流式雨水管 10.6 km²、都市下水路 3.4 km²、雨水調整池 1.8 km²、処理場 11.4 km²、ポンプ場 2.7 km²、となり、全体では 30 km²となった。この面積は、東京ドームの約 640 個分に相当する面積である。

2. 先進事例調査

先進事例調査として昨年度のアンケート調査結果を踏まえ、ヒアリング調査を行った。応用性・適用性（他地区の参考となる）と先進性（手本となり新たな創造性を促す）の視点から先進事例調査先として管路施設 3 ヲ所、処理場 2 ヲ所の 5 ヲ所を選定した。

<管路施設> 江川せせらぎ遊歩道（神奈川県川崎市）

越戸せせらぎ水路（栃木県宇都宮市）

下水道散策路はやかわ（愛知県岡崎市）

<処理場> 日野川浄化センター（福井県福井市）

下町・追浜浄化センター（神奈川県横須賀市）

3. 水・緑空間整備に関する検討手順

水・緑空間整備に関する検討は、基本的に①から⑦の手順で行う方針とする。

なお検討にあたっては、PI（パブリック・インボルブメント）の導入を検討するもととする。

①現況特性等の把握 ②住民ニーズの把握 ③整備課題・目的の設定

④地域の実情に応じた整備目標の設定 ⑤整備計画の策定 ⑥維持管理の検討 ⑦事後評価

4. 水・緑空間の今後検討すべき施策の方向性

整備上の問題点として財政面に起因するものが多い。その解決方針としては、上位計画で下水道施設における水・緑空間整備を位置づけにより道筋をつけるとともに、他事業間との積極的な連携、住民要望の抽出を行うことが考えられる。

国土交通省都市・地域整備局からの受託研究

研究担当者：堀江 信之、吉澤 正宏、金森 聖一

キーワード

緑化、公園、親水、修景